

1. 背景

- ・平成26年(2014年)2月：札幌市スポーツ推進計画（令和4年(2022年)度まで）
- ・平成26年(2014年)11月：札幌オリパラ招致表明
- ・平成28年(2016年)3月：さっぽろグローバルスポーツコミッション設立
- ・平成28年(2016年)4月：スポーツ局新設
- ・平成29年(2017年)3月：国が「第2期スポーツ基本計画」を策定（令和3年(2021年)度まで）
- ・**令和元年(2019年)7月：札幌市スポーツ推進計画改定**

2. スポーツ推進計画について

【基本理念】

スポーツ元気都市さっぽろ

～スポーツを通じて、市民が、地域が、さっぽろが元気に～

目標1 スポーツの力で「市民」がかがやく

市民が地域で「する」「みる」「ささえる」といった様々な形でスポーツに関り、心身の健康増進、生きがいに満ちた生き方を目指します

目標2 スポーツの力で「さっぽろ」をかえる

スポーツの力によって、社会の課題を解決したり、まちを活性化させたりすることで、より活力のある「さっぽろ」を目指します。

目標3 スポーツの力で「世界」へつながる

世界が憧れるまちを目指し、冬季オリンピック・パラリンピックの招致や、国際大会の開催などを通じてウィンタースポーツ拠点都市としてのブランドを高め、その魅力を発信し、世界につながることを目指します。

【成果指標と目標数値】

成果指標		基準値 平成24年度 (2012年度)	現状値 平成29年度 (2017年度)	目標値 令和4年度 (2022年度)
①スポーツ実施率	20歳以上 週1回以上	41.2%	56.4%	65.0%
	障がい者 20歳以上 週1回以上	—	43.7%	50.0%
②ウインタースポーツ実施率 (18歳～49歳・年1回以上)		—	20.1%	25.0%
③直接スポーツ観戦率 (18歳以上・年1回以上)		—	43.6%	50.0%
④ウインタースポーツ目的の 来札外国人観光客数(1月～3月)		—	175,000人	98,000人 (R2年度に250,000人 から変更)

3. 施策体系

3つの目標		7つの方針		15の施策	
1	スポーツの力で「市民」が かがやく	1	ライフステージや体力に応じたスポーツ活動の推進	1	子ども、高齢者、子育て世代、ビジネスパーソンのスポーツ参加を目指します
				2	スポーツに親しむための場所や機会を充実させます
				3	ウインタースポーツを振興します
		2	スポーツを通じた健康増進	4	スポーツを通じて市民生活の質の向上を図ります
				5	冬季における運動習慣を推進します
		3	様々な形・場でのスポーツ参加を促進	6	地域での取組を支援し、地域コミュニティの醸成につなげます
				7	スポーツを支える人材を育成し、活動を促進します
				8	トップアスリートやアスリートと連携を図ります
2	スポーツの力で「さっぽろ」をかえる	4	スポーツを通じた共生社会の実現	9	障がい者スポーツを振興します
				10	スポーツを通じた国際交流、異文化理解を推進します
		5	スポーツを通じた経済・地域活性化	11	札幌の特色をいかしたスポーツツーリズムの推進、交流人口の拡大に努めます
				12	札幌の資源をいかしたスポーツの楽しみ方を提供します
		6	「さっぽろ」の魅力を世界に発信	13	国際大会やスポーツイベントを通じて国内外へ札幌の魅力を発信します
				7	世界が憧れるウインタースポーツの拠点都市へ発展
3	スポーツの力で「世界」へつながる	7	世界が憧れるウインタースポーツの拠点都市へ発展	15	札幌ブランド、シビックプライドを醸成します

4. 15の施策の進捗状況（主な事業の抜粋）

自己評価基準	◎：当初の予定通り事業を実施できたもの ○：概ね予定通り事業を実施できたもの ▲：予定通り事業を実施できず今後に向けて検討を要するもの又は、当該年度時点で事業化に至っていないもの －：外的要因により未実施のもの又は、規模を大幅に縮小したもの
--------	---

目標 1 スポーツの力で「市民」がかがやく

方針 1 ライフステージや体力に応じたスポーツ活動の推進

施策 1 子ども、高齢者、子育て世代、ビジネスパーソンのスポーツ参加を目指します

(1) 子どもがスポーツに参加する機会の提供

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
子どものスポーツ参加のきっかけづくり	さっぽろっ子ウインタースポーツ料金助成（ウインタースポーツ普及振興事業） 部活動における外部人材の活用事業	ウインタースポーツに生涯にわたって親しめるよう、子どもたちに対してリフト料金・スケート賃料の助成を行い、スキー、スケートに親しむ機会を創出 各中学校における部活動の振興のため、部の運営を単独で行うことができる「部活動指導員」や、顧問教諭が不在でも単独で技術指導ができる「特別外部指導者」を派遣する	料金補助券を配付（スケート賃料金、スキーリフト料金） 使用者数延べ27,348人。 2020年度部活動数は1,210となり、ほぼ横ばい。部活動数維持のため、部活動指導員を45名に大幅増員して派遣したほか、特別外部指導者を26名派遣した。	◎

(2) ビジネスパーソンや子育て世代に対するスポーツ機運の醸成

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
ウォーキング推進キャンペーンの実施	「ウォークさっぽろ」の啓発	ウォーキングを通じて、市民の皆さんがいつでも元気であり続けること、そして札幌が「歩きやすい街」、「歩いて楽しい街」、「歩きたくなる街」として、国内外に広く知られるようになることを目指す	各区で作成しているウォーキングマップを引き続き配発 (2020年度印刷状況約1万部)	◎

施策 2 スポーツに親しむための場所や機会を充実させます

(1) 安心・安全なスポーツ施設の提供

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
スポーツ施設の計画的な保全、改修	スポーツ施設リフレッシュ事業	市民が安全・安心・快適にスポーツに親しめる環境を維持していくため、スポーツ施設の計画的な保全、改修、大型備品の更新を行う。	【修繕】 ・スポーツ交流施設人工芝敷設 ・円山陸上競技場スタンドベンチ保全 ・円山球場外構フェンス保全 ・円山球場スタンド防水保全 ・清田区体育館温水プール建築保全 ・スポーツ交流施設建築保全 【備品】 ・平岸プール更衣室ロッカー更新 ・円山陸上競技場エアレーション更新 ・東区体育館トレーニングマシン更新 ・麻生球場兼用リール式芝刈機更新	◎
将来を見据えたスポーツ施設の再配置、再整備の検討	スポーツ施設配置・活用計画策定事業	今後の人口減少や超高齢社会、多様化するニーズに対応するため、オリパラ等の競技大会への対応や更新費用の平準化等を考慮した計画を策定	「札幌市スポーツ施設配置活用実施方針(案)」をまとめ、パブリックコメントを行った(方針策定は2021年度)。	○

(2) スポーツを実施する機会の提供・情報発信

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
学校開放の実施	学校開放事業（学校施設等開放事業）	小中学校の体育施設を市民へ開放し、身近なスポーツ活動の場を提供(体育館、グラウンド、格技室)	小中学校の体育施設を市民へ開放し、市民のスポーツ活動の場の提供を継続。 利用率：84.7%	○
ワールドカップ開催を契機としたラグビー競技の普及	ラグビー普及振興事業	小学生を対象としたタグラグビーの普及を行うとともに、トップレベルの試合を観戦する機会を提供	札幌市内小中学校のタグラグビー実施率74%	○

(3) 官民連携によるスポーツ環境整備手法の研究

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
官民連携によるスポーツ環境整備手法の研究	ウインタースポーツ・オフシーズン練習施設整備費補助金	市民が一年を通じてウインタースポーツに親しめる環境を整備するため、民間事業者による施設整備に対して費用の一部を補助	CRASS:スケボーパーク施設改修	◎

施策 3 ウインタースポーツを振興します

(1) ウインタースポーツの裾野拡大に向けた取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
ウインタースポーツ少年団の活性化	ウインタースポーツ競技団体とのマッチング（さっぽろジュニアスリート発掘・育成事業）	ウインタースポーツ少年団の活性化を図るため、体験練習会の開催や広報を支援	新型コロナの影響により体験会は中止となったが、エコチルにWS10種目の少年団についての情報を載せたり、デジタル環境広場に出展したりすることで広報活動を行った。 また、バーチャルウインタースポーツ塾としてスキージャンプ、フィギュアスケート、アルペンスキーのジュニアスリートの目線による動画を配信した。	－

(2) ウインタースポーツの経済的負担の軽減

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
児童生徒を対象としたリサイクルスキーの提供	さっぽろっ子スキーリサイクル	スキー学習に向けた保護者の負担軽減を目的として、市民からリサイクル可能なスキー用具を回収し有効活用	市民からリサイクル可能なスキー用具を回収して、572セットの用具を必要とする家庭に配付した。	◎

方針 2 スポーツを通じた健康増進

施策 4 スポーツを通じて市民生活の質の向上を図ります

(1) 市民の自主的な健康づくりの推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
地域における健康づくり活動の支援	清田区健康アップ推進事業	歩くことを主眼とした健康づくりやバランスの良い食習慣の普及を進め、運動・栄養の両面から健康づくりに取り組む市民を増やし、健康寿命の延伸につなげる	・きよち健康ポイント事業を実施(参加者数180名) ・区役所健康増進フロアで運動指導員による運動教室を実施(毎週土曜日、全21回)	○
公園などの散策できる場の提供	安全・安心な公園再整備事業	誰もが地域の公園を安心して安全に利用できるよう、老朽化した遊具や管理事務所等の改修を行うほか、出入口や園路の段差解消、バリアフリー対応トイレの設置など、施設のバリアフリー化を実施します。	【バリアフリー化、老朽化施設更新を実施した公園数】54公園	○

施策 5 冬季における運動習慣を推進します

(1) 気軽に行うことのできるウインタースポーツの普及

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
歩くスキーの普及振興	歩くスキー普及振興事業	市民が手軽にウインタースポーツを楽しめる環境づくりのため、中島公園及び白旗山競技場に歩くスキーコースを設置し無料で開放する	中島公園利用者数4,795人 白旗山競技場は無人開放のため、利用者数のカウントをしていない。	○

方針 3 様々な形・場でのスポーツ参加を促進

施策 6 地域での取組を支援し、地域コミュニティの醸成につなげます

(1) 地域におけるスポーツ活動の支援

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
地域スポーツ指導者の中学校への派遣	地域スポーツ指導者派遣事業（ウインタースポーツ普及振興事業）	ウインタースポーツに生涯にわたって親しめるよう、子どもたちに対してウインタースポーツを始めるきっかけづくりと学習環境の充実を図る	中学校体育授業の補助指導者として、15校に延べ335人派遣。	◎

施策 7 スポーツを支える人材を育成し、活動を促進します

(1) スポーツボランティアの育成と推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
スポーツボランティアの活動及び研修機会の提供	スポーツボランティアの運営・管理（地域スポーツコミッション事業）	スポーツボランティア(スマイル・サポーターズ)の管理運営及び道内連携の推進	・新型コロナウイルス感染症による大会やイベントの中止により派遣実績なし ・小学校スキー学習支援としてボランティア派遣を実施(5校、19回、延べ93人を派遣)	○

(3) クリーンでフェアなスポーツの推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
クリーンでフェアなスポーツの推進	競技団体等の連携によるスポーツ・インテグリティの啓発	スポーツ関係者によるコンプライアンス違反、体罰、暴力等の根絶を目指し情報提供等を行う	札幌市スポーツ協会から加盟競技団体に対し、一般スポーツ団体向けガバナンスコード及びセルフチェックシートの説明とコンプライアンスの重要性について情報提供を行った。	◎

4. 15の施策の進捗状況（主な事業の抜粋）

施策8 トップスポーツやアスリートと連携を図ります				
(3) プロスポーツチームとの連携によるスポーツ振興				
具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
プロスポーツSAPOROによる取組	プロスポーツSAPORO連携事業	札幌市に本拠地を置く4つのプロスポーツチーム(ファイターズ、コンサドーレ、レバンガ、エスポラーダ)と連携して観戦文化の醸成を図る	年間実施数 6事業 ・区民応援デー ・キッズデー ・他部局連携(教育、消防) ・共通カレンダー作成 ・合同動画制作	○

目標2 スポーツの力で「さっぽろ」をかえる

方針4 スポーツを通じた共生社会の実現

施策9 障がい者スポーツを振興します

(1) 障がい者スポーツの普及・振興の促進

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
障がい者スポーツ指導者養成講習会の開催	障がい者スキー普及促進事業 (障がい者スポーツ普及促進事業)	障がいのある方のウィンタースポーツの裾野拡大を目的として、バيسスキー・シットスキーの指導者養成講習会及び体験会を開催	2018年度よりシットスキー及びバيسスキーについて指導者養成講習会を実施しており、2020年度は19人、これまでに延べ65人が受講している。	—

(2) 障がい者スポーツの拠点づくり

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
障がい者スポーツクラブの拠点づくり	障がい者スポーツ専用の学校開放 (障がい者スポーツ普及促進事業)	障がい者スポーツの活動の場の拡充を目的として、みなみの杜高等支援学校の体育館で障がい者スポーツ専用の学校開放を実施	新型コロナウイルス感染症対策を施した上で開放を実施し、2020年度は65.1%の稼働率となった。	—

施策10 スポーツを通じた国際交流、異文化理解を推進します

(1) 姉妹都市との国際スポーツ交流の実施

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
札幌マラソン大会姉妹都市交流事業 札幌マラソン大会姉妹都市交流事業	札幌マラソン大会姉妹都市交流事業 (スポーツ姉妹都市交流事業)	スポーツを通じて相互理解・友好親善を深め、国際感覚豊かな人材を育成するため、5年毎の姉妹都市提携記念年に該当する相手都市から選手団を札幌マラソン大会に招待	新型コロナウイルスの影響により受入見送り	—

(2) スポーツを通じた国際交流の推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
札幌国際スキーマラソン大会の開催を通じた国際交流	札幌国際スキーマラソン大会選手交歓会における選手間の国際交流	札幌国際スキーマラソン大会の前日に開催する選手交歓会において、国内・海外選手との交流を図り、それぞれの国の文化や習慣などに触れ合う機会を創出する	・2021年2月7日開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症のため中止となった。	—

方針5 スポーツを通じた経済・地域活性化

施策11 札幌の特色をいかしたスポーツツーリズムの推進、交流人口の拡大に努めます

(1) さっぽろグローバルスポーツコミッションによる取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
海外代表合宿の誘致	国際競技大会や事前合宿等の誘致 (地域スポーツコミッション事業)	札幌市、北海道の豊富なスポーツ資源を最大限活用することで、国際競技大会や事前合宿の誘致、開催支援を行う。	・「2021ワールドパラノディックススキージャパンカップ札幌大会」における運営支援 ・東京2020大会パラリンピック事前合宿にかかるカナダのバーチャル視察受入れ	○

施策12 札幌のスポーツ資源をいかしたスポーツの楽しみ方を提供します

(1) 札幌の魅力をいかした観光資源の活性化検討

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
スキーを始めとしたウィンタースポーツ体験の機会創出	スポーツツーリズム振興 (地域スポーツコミッション事業)	札幌市、北海道の豊富なスポーツ資源を最大限活用することで、ウィンタースポーツを中心とするスポーツツーリズムを推進する。	・中島公園でナイトクロカインホワイトイルミネーションを開催し、既存コンテンツを活用した新たなナイトコンテンツによる誘客促進を図った。	○

目標3 スポーツの力で「世界」へつながる

方針6 「さっぽろ」の魅力を世界に発信

施策13 国際大会やスポーツイベントを通じて国内外へ札幌の魅力を発信します

(2) 東京2020オリンピック・サッカー競技の開催

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
東京2020オリンピック・サッカー競技の開催	東京2020オリンピック・パラリンピック開催事業	東京2020に合わせて、国内外を問わず首都圏を訪れる多くの観光客に対して、北海道・札幌への来客につなげることを目的に情報発信	東京2020大会が延期となったため、本事業も延期とした。	—

(3) 国際スポーツ会議の誘致に向けた取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
国際スポーツ会議の誘致に向けた取組 ※国際スポーツイベントも実績に含める	都心部クロスカントリースキー大会実証実験事業 国際スポーツ大会等誘致促進事業	札幌ならではの冬のにぎわいを新たに創出するため、都心部においてクロスカントリースキー競技の国際大会開催を目指し実証実験を行う 冬季オリパラ招致に向け、ウィンタースポーツ競技を中心に国際大会等を誘致するため、競技団体等の主催者に開催経費を補助	新型コロナウイルス感染拡大の影響により2020年度事業については実施せず ・新型コロナウイルス感染症の影響による大会等の延期や中止、開催規模の縮小に伴い事業実績なし	—

方針7 世界が憧れるウィンタースポーツの拠点都市へ発展

施策14 オリンピック・パラリンピックムーブメントを推進します

(1) 市民の招致機運の醸成に向けた取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
冬季オリンピック・パラリンピック招致活動	冬季オリンピック・パラリンピック招致活動	冬季オリパラ招致を目指し、次世代に過度な負担を残すことのない、まちづくりと連動した大会の開催概要計画の策定を行うとともに、機運醸成の取組や招致活動を図る。	・機運醸成の取組を継続 ・IOC及び市民との対話内容を踏まえながら開催概要計画の更新に向けた調査・検討を実施	○

(2) オリンピック・パラリンピック教育の推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
オリンピック・パラリンピアンを招へいし、講話や体験活動を行う学校教育	オリンピック・パラリンピック教育推進事業	オリンピック・パラリンピック教育研究推進校を指定し、教育課程に位置付けられている教育活動と関連を図ったオリンピック・パラリンピック教育の学習モデルづくりに係る研究を行い、その成果を全市に普及する	全小中学校の87%にあたる257校において、副教材や実践事例集を活用した学習、オリンピアン、パラリンピアン、オリンピック教育の学習モデルづくりに係る研究を行い、その成果を全市に普及する	○

施策15 札幌ブランド、シビックプライドを醸成します

(3) 地元出身アスリートの発掘・育成体制等の研究

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
スポーツ施設を戦略的に活用したアスリートの発掘	さっぽろジュニアアスリート発掘・育成 (さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業)	札幌市スポーツ協会が保有する資源を最大限活用することで、優れた素質を有する子どもたちを早期に見出し、札幌から世界に羽ばたいたトップアスリートの育成を図る。	冬季競技の5種目による育成を開始(スノーボード、スキージャンプ、カーリング、フリースタイル、ノルディック複合)。ナショナルチームに4人の育成選手が選出された。 夏季競技の3種目の選定を行った(陸上、テニス、バドミントン)。	◎

【自己評価集計】

◎	24	当初の予定通り事業を実施できたもの
○	45	概ね予定通り事業を実施できたもの
▲	2	予定通り事業を実施できず今後に向けて検討を要するもの又は、当該年度時点で事業化に至っていないもの
—	28	外的要因により未実施のもの又は、規模を大幅に縮小したもの

5. 成果指標と目標数値の状況について

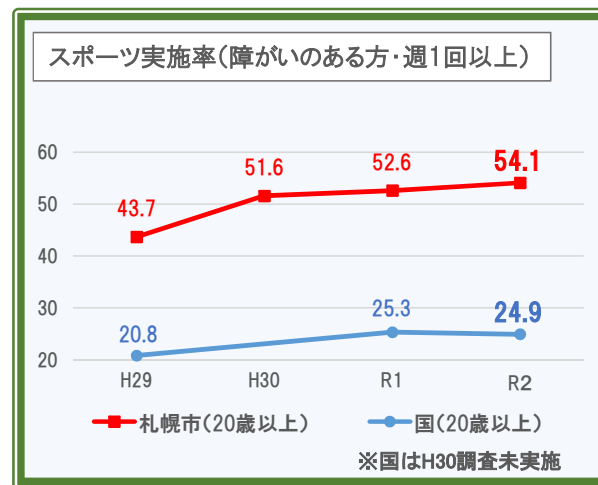
1 スポーツ実施率

(1) 20歳以上、週1回以上

令和2年度：54.9% 【目標65%（令和4年度）】

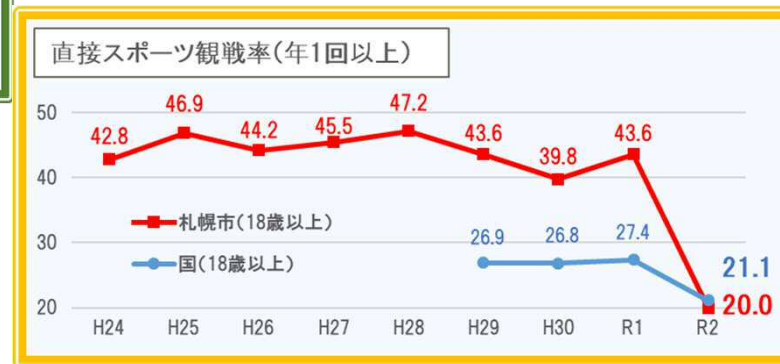
(2) 障がい者、20歳以上、週1回以上

令和2年度：54.1% 【目標50%（令和4年度）】



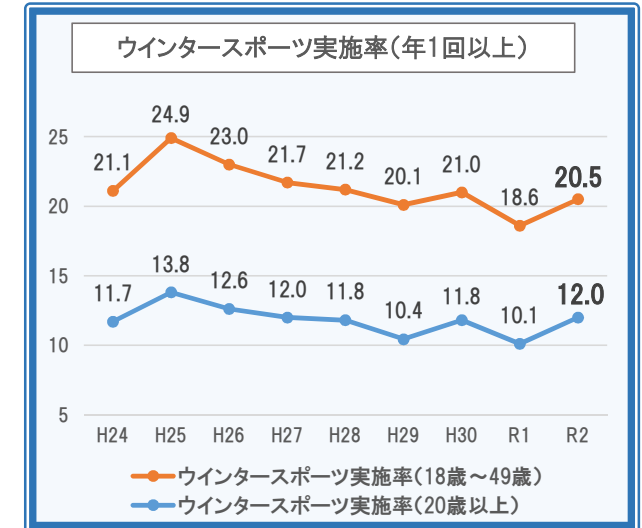
3 直接スポーツ観戦率(18歳以上、年1回以上)

令和2年度：20.0% 【目標50%（令和4年度）】



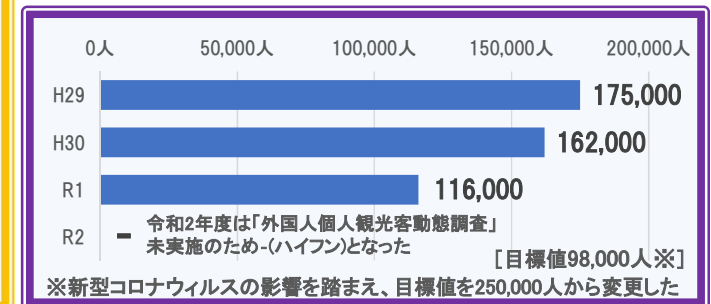
2 ウィンタースポーツ実施率(18歳～49歳・年1回以上)

令和2年度：20.5% 【目標25%（令和4年度）】



4 ウィンタースポーツ目的の来札外国人観光客数

令和2年度：- 【目標98,000人（令和4年度）】



6. 事業実施結果及び成果指標にかかる分析・要因について

○事業実施結果について

・2020年度は事業の多くが新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、感染症対策を徹底し、実施手法や開催時期を変更するなどしたうえで、約7割の事業で概ね当初の見込み通り実施できた（◎又は○）

・実施状況が▲の事業（2事業）は引き続き事業化に向け検討中

・「一」の事業は外的要因（コロナの影響）で未実施又は規模を大幅に縮小したもので全体のおよそ3割となった

○成果指標について

・スポーツ実施率は、前年度比3.7ポイント減。コロナ禍でスポーツの機会が失われた可能性が考えられる。

・障がい者スポーツ実施率は、前年度比1.5ポイント増。コロナ禍でも意識的に体を動かす方が多かったと考えられる。

・ウィンタースポーツ実施率は、前年度比1.9ポイント増。身近な場所での屋外スポーツが評価されたものと考えられる。

・直接スポーツ観戦率は、スポーツイベントの無観客試合や人数制限などの影響で前年度比23.6ポイントの大幅減。

・ウィンタースポーツ目的の来札外国人観光客数は調査未実施のため「-」となり、R2年度から目標値を250,000人から98,000人に変更した。